

# 岡山市に介護複合施設

## 創心會 住まいと泊り核に

岡山県を中心に通所介護、訪問介護及び看護、居宅介護支援などを展開する創心會（岡山県倉敷市）は4月1日、住まいと泊り機能を核とした介護複合施設「創心会リハケアベース大安寺」（岡山市）を開設した。地域住民の介護ニーズにワンストップで対応可能な施設となっている。

ヘルスケア  
フォーカス

同施設は、サービス付き高齢者向け住宅（20室）、看護小規模多機能型居宅介護（29名）、短期入所生活介護（33室）、通所介護（80名）からなる。サ高住と看多機は法人初の開設となった。

泉伸也センター長は、「身体状況が変わっても、1つの施設で対応できるため、利用者にとって安心感につながります」と語る。

施設には各種リハビリ機器を設置しているほか、介護職員全員に、リハビリ知識を習得させる社内制度（生活力デザイナー制度）により、リハビリの理論、高齢期の病理、生活環境に適應するための身体の使い方など、

「百年煌ゾーン」を基本に、短時間で筋力向上や機能訓練を行う「元気デザイナーゾーン」、認知症が進んだ人向けに、回想法や畑作業など五感を刺激する活動を通じて機能の維持・向上を図る「五感リハビリゾーン」の

3つに分けられている。それぞれの身体状況に合わせて選択が可能だ。



◀スタッフはリハビリの知識を身に付ける研修を受けており、自立に向けた質の高い支援を提供できる

自立支援に強みを持つ。

「ここでは、元気な人から要介護度が高い人まで、さまざまな人が居ます。そのため、『リハビリを頑張ると、元気になったらこっちに移動する』といった、元気になっていくステップが示しやすい。リハビリのモチベーションにつながることも期待できます」（泉センター長）

今後、施設にクリニックを開設する予定で、より医療ニーズの高い人への対応も可能となる。同施設のような介護複合施設を、県内のほかのエリアでも展開していく構想もあるという。



泉伸也  
センター長

## 武久氏、名誉会長へ 日慢協



一般社団法人日本慢性期医療協会  
名誉会長  
武久 泉

トピックス

一般社団法人日本慢性期医療協会（東京都新宿区）の武久洋三会長が、6月末をもって退任する。武久会長が会長に就任したのは2009年、第4代会長として14年間、療養病床の在り方や慢性期医療とリハビリの果たすべき役割などについて提言し活動してきた。

療養病床と現在の療養病床では、その実態は全く異なる。現在、療養目的の患者はほとんどおらず8割が重症度の高い患者だが、そのうち割以上を日常生活に戻しているのだという。

## 療養病床でも治療を 在宅復帰を見据え

19日に開かれた定例会見の冒頭で、武久会長は「療養病床という名称は実態を表しているとは言えず、『慢性期重症治療病床』というほうが相応しい」と言及。かつ

「今回改定で、療養病棟は25%減算となった。要するに、療養病棟はもう辞めなさいということだ」と武久会長。会

「療養病床と現在の療養病床として、地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟を配置し、2次救急指定を取って在宅高齢者や居住系施設などの入居者の急変時対応を、会長地域の多機能病院として地域の

信頼を得る努力をすべし」と呼びかけた。武久会長は会長に就任したその年に、団体名を「日本療養病床協会」から「日本慢性期医療協会」へと改称。そして14年間のあいだにも、療養病床の改革に専心してきた。

「病院は治療の場であり、短期間で自宅に戻すことこそが慢性医療だ」と語った。

武久会長は会長を退任後、同協会の名誉会長に就任する。「今後も、医療と介護の現場を少しでも良くしていきたい」との思いだ。